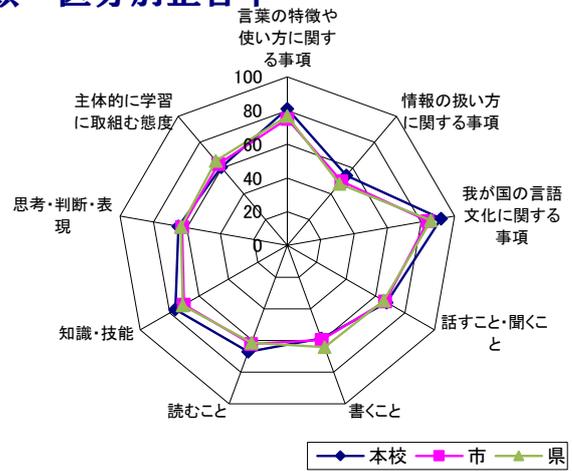


宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.1	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	54.1	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.9	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	67.6	66.5	65.5
	書くこと	58.8	59.6	64.2
観点	読むこと	67.1	62.2	61.5
	知識・技能	76.1	70.2	71.1
	思考・判断・表現	65.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	60.5	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

○良好的な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

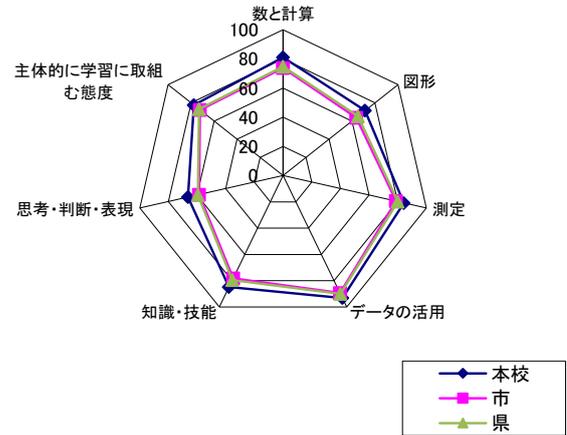
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○漢字を書くことに関する問いでは、3問中2問が県の正答率より高い。</p> <p>○言葉の学習に関する問いでは、県の正答率より高い。特に「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいるか」を問う問題は、県の正答率より17.3ポイント高い。</p> <p>●「第3学年に配当されている漢字を正しく書いているか」を問う問題では、県の正答率より低い問いがあり課題が見られる。</p>	<p>・新出漢字の指導では、繰り返し漢字練習をしたり、AIDリルを活用したりすることで定着を図る。また、既習の漢字は、他の教科においても、積極的に使うようにし、様々な場面で日常的に使えるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○「国語辞典の使い方を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。学習に国語辞典を積極的に活用している成果と考えられる。</p> <p>○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p>	<p>・今後も授業で、積極的に辞書を活用していく。</p> <p>・文章を拡大印刷したものやデジタル教科書を活用し、中心となる語や文を色分けすることで、視覚的に文章の内容を捉えられるようにするなどの支援の工夫を行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○「漢字のへんやつくりを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。進出漢字を学ぶ時間に、へんやつくりを意識して取り組んでいる成果であると考えられる。</p>	<p>・引き続き、新出漢字を学ぶ時間に、児童がへんやつくりを意識できるようにしたり、既習の漢字においても、へんやつくりによる仲間集めをしたりする機会を設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市よりやや高く、県より高い。</p> <p>○話し合いの内容を聞き取る問題の「話し手が伝えたいことの中心を捉えているか」を問う問題や「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話しているか。」を問う問題では、県の正答率より低く課題が見られる。</p>	<p>・学級活動、朝の会、帰りの会などにおいて、スピーチや話し合い活動を積極的に取り入れ、発表する力を育てる。また、自分の考えを話すことに自信をもたせたり、話すことに喜びを感じたりする場面を意図的につくる。</p> <p>・授業で、自分の考えを発表する場面を意図的に設け、話す機会を増やす。</p> <p>・段階を踏んで自分の考えを伝える練習を行い、理由を挙げて話すことができるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市よりやや低く、県より低い。</p> <p>●「指定された長さで文章を書いているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p> <p>●「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書いているか」を問う問題では、県の正答率より低く課題が見られる。</p>	<p>・学校統一で行っている日記・作文指導で、指定された文字数で文章を書く練習を繰り返し行う。</p> <p>・授業で、「理由や事例を挙げているか」など、ポイントを意識した文を書かせる。また、読み直して、言いたいことが伝わるか確認するようしたり、友達と読み合っ、言いたいことが伝わっているか確認したりする。</p>

読むこと	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○物語文の「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えているか。」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>○説明文の「叙述を基に文章の内容を捉えているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>これらのことは、授業での読み取りがしっかりできていることに加え、読書に親しんでいる成果であると考えられる。</p>	<p>・引き続き、朝の読書の時間や読書週間、家読などを通して、読書の習慣を定着させる。また、物語文や説明文など、ジャンルを問わず、様々な文章に親しませる。</p>
------	---	---

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.1	73.8	74.8
	図形	71.4	63.7	65.3
	測定	84.3	78.9	80.1
	データの活用	93.2	89.3	90.0
観点	知識・技能	84.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	66.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	77.7	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

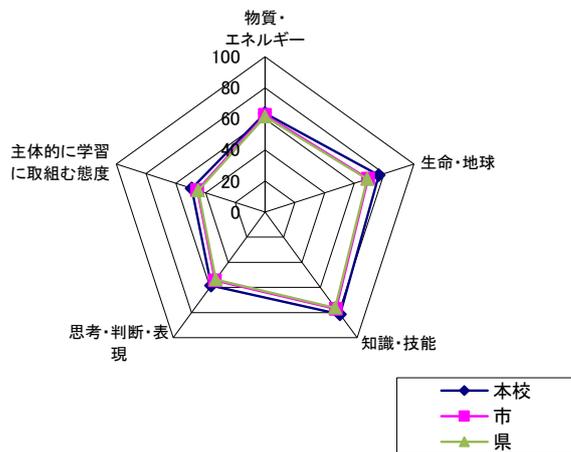
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○基本的な計算に関する問いでは、県の正答率とほぼ同じか高く、計算力の定着が見られる。繰り返し計算問題を解くことを継続した成果であると考えられる。</p> <p>○「35×4の暗算の仕方を説明できるか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>○□を使った式に関する問いでは、県の正答率とほぼ同じか高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の時間に、プリントやAIDリルに継続して取り組むことで、基礎的事項の定着を図る。 ・1人1台端末を活用して、児童が自分の言葉で説明したり、友達と考えを交流したりする機会を設けることで、理解が深まるようにする。 ・授業で、図を使って解き方を考えることで、問題と図を関連付けて考えられるようにする。
図形	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○「円の直径について理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>○「円の半径とコンパスの使い方について理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>●「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明しているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室背面の学習コーナーなどに、図形の性質などを掲示することで、既習事項の振り返りができるようにする。 ・コンパスを使って様々な形を描いたことで、円の半径とコンパスの使い方についての理解につながった。今後もコンパスの操作や作図を繰り返し行うことにより、定着を図ることができるよう支援する。 ・問題の解き方や問題の内容を円や三角形などの図形で表したときに、自分の言葉で説明する活動を意図的に取り入れ、考えを深め、伝える力を伸ばすよう支援する。
測定	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○「時刻と時間」や「長さや重さ」に関する問いでは、県の正答率とほぼ同じか、高い。学習内容を生活の中で活用できるよう支援した成果であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を扱ったり、操作したりする活動を多く取り入れることで、今後も量感を養えるように工夫する。
データの活用	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○表と棒グラフに関する問いでは、県の正答率とほぼ同じである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を使って、グラフを作成したり、読み取ったり、共有したりする活動を取り入れることで、理解を深めさせる。 ・日常生活に関わるデータを扱うことで、児童が意欲的に取り組むことができるよう工夫する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.6	62.5	61.5
	生命・地球	76.4	69.2	68.6
観点	知識・技能	81.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	58.6	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	49.3	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市よりやや高く、県より高い。</p> <p>○物の重さに関する問いでは、県の正答率より7ポイント以上高い。</p> <p>○電気の通り道の「おもちゃの構造を理解し、適切な回路を構想できるか」を問う問題では、県の正答率より高い。学習内容を生活の中で活用できるよう指導した成果であると考えられる。</p> <p>●磁石の性質の「鉄くぎがどのような磁石になるのか指摘できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p> <p>●風やゴムのはたらきの「車の動き方が、風の向きや強さによって決まることを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・実験結果から推測することの正答率は高かったことから、実験から分かったことをまとめる活動をさらに充実させて理解を深めさせる。</p> <p>・磁石の性質に関する問いの正答率が低かったので、実験を通して実体験を伴った理解につなげたり、社会で方位磁石を用いる際には理科と関連付けて既習事項の確認を行ったりして、知識の定着を図りたい。</p> <p>・風やゴムのはたらきの「車の動き方と風の向きや強さの関係」について知識が定着していないことから、自分の目で観察し考察する活動を充実させたり、繰り返し復習問題を解いたりして、理解を深めさせる。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○植物の育ち方に関する問いでは、県の正答率より9ポイント以上高い。</p> <p>○太陽と地面の様子「影ふみ遊びの、太陽のある位置と影のでき方の関係をもとに、影を踏まれにくい逃げ方を判断し、その理由を記述できるか」を問う問題では、県の正答率より高い。学習内容を生活の中で活用できるよう指導した成果であると考えられる。</p> <p>●太陽と地面の様子「日なたと日かげの地面の温度の様子をもとに、日傘の下の方が涼しく感じる理由を推測できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p> <p>●磁石の性質の「方位磁石の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・知識・理解に関する問題は正答率が高いので、引き続きプリント学習などを取り入れ、知識の定着を図る。</p> <p>・日なたと日かげの温度の違いを説明する問題で正答率が低く、無回答の児童も見られたことから、授業の中で説明したり、実験で分かったことを文章でまとめたりするなど、自分の言葉で学習したことを表現する機会を設ける。</p> <p>・磁石の性質では、実際に実験をすることで、経験として理解させる。</p> <p>・体験できる機会が難しい分野や、条件や時期により観察が困難がある分野では、映像資料を活用し、理解を深めさせる。</p>

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は(75.6%)で市の平均と比べると17ポイント以上高い。家庭学習ファイルの活用や自主学習ノートの取り組み、年2回のパワーアップウィークなどの実施により、児童が家庭学習をする習慣がついている成果であると思われる。今後も、取組を続けるほか、家庭学習の時間や内容にも着目して、充実した家庭学習ができるように働きかけていきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した児童の割合は(94.6%)で、市の平均と比べると7ポイント以上高い。児童一人一人のよさを認め合う学級づくりや特別活動の充実により、自分の存在価値を感じている児童が多い。今後も、児童が自己有用感を感じられるような機会を作り、学習にも結び付けていきたい。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めている。」と回答した児童の割合は(89.2%)で、市の平均と比べると7ポイント以上高い。児童自ら、学級や学校の環境を良くしていこうと考え、自主性が育ってきているものと考えられる。今後も児童の発言やアイデアを認め励ます指導を続けていきたい。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」と回答した児童の割合は(91.9%)で、市の平均と比べると13ポイント以上高い。学校でも新聞記事の読み取りの宿題を出すなど、児童が時事問題に触れる機会を設けるようにしている。今後も引き続き継続していきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。」の質問に関して「30分以上読書をしている」と回答した児童の割合は(70.2%)で、市の平均と比べると29ポイント以上高い。朝の読書タイムや読み聞かせ、土・日・祝日の「家読」の実施により、読書の習慣化が図られていると言える。今後もこれらの取組を継続させ、読書の習慣化を図りたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童の割合が市や県の割合を上回った。自分の考えを分かりやすくまとめる良さを、授業で経験させていきたい。

●「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答した児童の割合が県と市の割合を下回った。今後は、算数の授業を中心に、児童にとって身近な時事問題などを授業の導入教材として用いるなどして、興味を持たせていきたい。

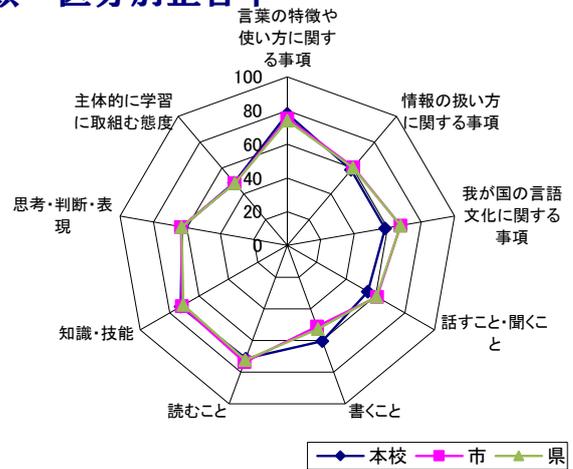
●「普段(月～金曜日)、1日どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを読みますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)。」の質問に対して、「1時間以上」と回答した児童の割合が市や県の平均を上回った。家庭での適切な使用ができているか、児童や保護者に啓発を続けていきたい。

●「朝食を食べていない。」と回答した児童の割合が市や県の割合を上回った。基本的な生活習慣の大切さを学ぶ時間を設けると共に、家庭の理解や協力が得られるように啓発していきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.1	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	58.5	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	58.5	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	54.7	61.0	60.7
	書くこと	60.4	51.2	52.8
	読むこと	71.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	72.5	71.7	70.6
	思考・判断・表現	62.9	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	48.7	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

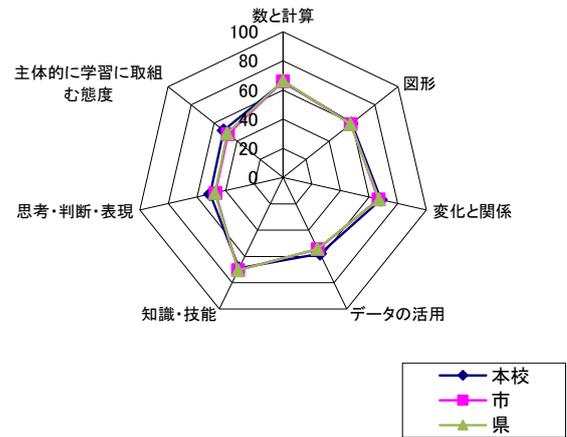
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「連体修飾語や連用修飾語について理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。授業で言葉の決まりをしっかりと教え、作文するときに活用できるよう指導している成果であると考えられる。 ○「気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているか」を問う問題では、県の正答率より高い。 ●「第4学年に配当されている漢字を正しく書いているか」を問う問題では、県の正答率より低い問いがあり、課題が見られる。	・漢字練習だけでなく、音読を通して漢字の定着を図る。 ・朝の学習や家庭学習で、5年生で学ぶ漢字だけでなく前年度までに習った漢字も含め、既習漢字の定着を図ることができるよう意図的に進める。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市や県より低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約しているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。	・説明文の学習で、要点や指示語に着目できるよう、下線を引いて読み取るなど、視覚的に把握できるように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県より低い。 ●「ことわざの意味を知り、正しく使っているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。	・司書や読み聞かせボランティアとも連携し、図書館利用時や読み聞かせで、ことわざに関する話を取り上げてもらうなどして、ことわざに触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県より低い。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。 ●「意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。	・様々な学習の時間において、相手の意図や思いをきちんと聞き取れるよう、話を聞く態度を育てる。 ・話し合い活動で、司会の役割を経験させることで、様々な意見をまとめる機会を経験させるとともに、積極的に自分の意見を話す機会を増やす。 ・他教科にわたり、自分の言葉で考えや思いをまとめ、伝える活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いているか」を問う問題や「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いているか」を問う問題では、県の正答率より高い。段落構成を理解させ、学校統一で行っている日記・作文指導を繰り返し行ってきた成果であると考えられる。 ●「指定された長さで文章を書いているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。	・今後も日記・作文指導を継続し、修飾語を用いたり説明を付け加えたりして、条件を満たす作文を書くなど、日頃から書くことに親しむ学習を継続する。 ・読書活動を推進し、語彙を増やせるようにする。

読むこと	<p>平均正答率は、市より低く、県よりやや低い。</p> <p>○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。1人1台端末を活用して、感想や自分の考えを共有し合って学習を進めてきた成果であると考えられる。</p> <p>●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・今後も読書活動や家読を推進して、様々なジャンルの本に触れる機会を意図的に取り入れる。</p> <p>・物語文の学習では、叙述を基に登場人物の心情を想像する学習に十分時間をとり、登場人物の気持ちを理解し、想像することができるようにする。</p>
------	--	---

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.6	66.1	66.4
	図形	59.6	58.9	58.8
	変化と関係	68.3	66.6	67.0
	データの活用	58.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	69.0	70.4	70.6
	思考・判断・表現	50.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	51.8	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

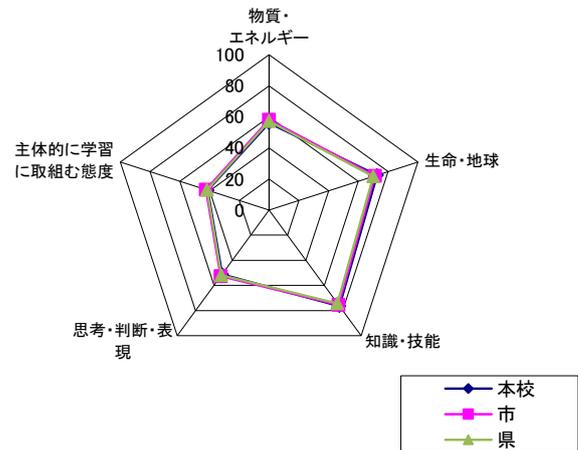
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や県よりやや低い。</p> <p>○「$3けた \div 2けた = 2けた$ (余りあり) の計算ができるか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>○「分配法則を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>●「概数に対応する数の範囲を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p> <p>●「帯分数－真分数＝真分数 (繰り下がりあり) の同分母分数の計算ができるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習の時間を活用し、基礎的事項の定着を図る。 単元に応じて練習問題やミニテストを計画的に取り入れ、基礎学力の定着を図る。 継続して復習プリントやドリルを活用し、計算の力を伸ばすことができるよう支援する。
図形	<p>平均正答率は、市や県よりやや高い。</p> <p>○「複合図形で、面積の求め方や式を表した図を選んでいるか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>○「直方体のある面に平行な辺を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。これは、教室背面の学習コーナーの活用して図形を掲示し、視覚的に捉えられるよう工夫した成果であると考えられる。</p> <p>●「分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の授業では、教室背面の学習コーナーなどにこれまでに学んだ図形の性質を掲示することで、図形の性質を振り返り、学習と結び付けられるようにする。 授業で、分度器を活用して角度を読み取る問題を意図的に取り入れる。 授業や朝の学習で、練習問題に取り組む時間を確保し、学習の定着を図る。
変化と関係	<p>平均正答率は、市より高く、県よりやや高い。</p> <p>○「図を使って、基準量を求めるための除法の立式ができるか」を問う問題では、県の正答率より高い。文章問題で、図を活用して解くことを継続してきた成果であると考えられる。</p> <p>○「2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べることができるか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、図を活用した解き方を授業で意図的に取り上げることで、児童が問題と関連させて考えられるよう支援する。 立体の具体物を活用して、分かりやすい授業を展開する。 児童にとって身近な題材や操作を通して内容を理解できるよう学習を進めることで、割合の基本的な内容を理解できるようにする。 伴って変わる量に関する練習問題に取り組む時間を確保したり、伴って変わる量について児童が自分の言葉で説明する機会を設けたりして、理解が深まるよう支援していく。
データの活用	<p>平均正答率は、市や県より高い。</p> <p>○「図書室を先週利用した人数と今週利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を示し、その求め方を説明しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。身近な話題についてのデータをグラフに表す活動を行った成果であると考えられる。</p> <p>●「折れ線グラフから変わり方を読み取ることができるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表から読み取った内容をグループや学級全体で話し合うことで、児童が言葉で説明しながら理解を深められるようにする。また、1人1台端末を活用し、児童が様々なグラフや表に触れることができる機会を意図的に設ける。 日常生活で児童が関心をもった内容を既習のグラフに表し、問題解決できるような学習活動を設定する。その中で、児童がグラフに表すことのおよさを実感しながら、活動に取り組めるよう支援する。

宇都宮市立雀宮東小学校第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.1	58.1	57.2
	生命・地球	72.5	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	51.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	41.3	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市より低く、県よりやや低い。</p> <p>○物の体積と力に関する問では、県の正答率とほぼ同じか高い。「気泡シートが閉じ込められた空気のどのような性質を利用しているかを説明できるか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>●水のすがたの「水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに、水の量の違いと沸騰する温度を関係付けて記述できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p> <p>●物の温まり方の「水の温まり方から、水槽のヒーターを取り付ける適切な位置を推測できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・復習プリントで、問題を繰り返し解くことにより、基礎的事項の定着を図る。 ・実験結果をまとめるときに、図や表を使うことで分かりやすくまとめるよう支援する。 ・授業で実験を行ったとき、実験の結果から分かることやなぜそうなったかを説明するために、適切な言葉を使って自分でまとめることができるよう支援する。
生命・地球	<p>平均正答率は、市よりやや高く、県より高い。</p> <p>○1年間の植物の成長の「季節とサクラの様子との関係を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>○天気の様子と気温の「気温を測る条件を理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。また、「記録温度計の記録から、天気の変化を推測できるか」を問う問題では、県の正答率より高い。これは、授業で実際に気温を測ったり、天気の変化を推測する経験をしたことによる成果であると考えられる。</p> <p>○月と星の「満月の1日の動きを理解しているか」を問う問題では、県の正答率より高い。</p> <p>●月と星の「半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p> <p>●雨水のゆくえと地面の様子「実験の結果をもとに、土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を記述できるか」を問う問題では、県の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「天気の様子と気温」については、十分に理解しているので、さらに復習プリントを活用して、学力の定着を図る。 ・「月と星」については、映像資料などを活用し、理解を深められるようにする。 ・「雨水のゆくえと地面の様子」については、雨水のしみこみ方について、日常生活で経験することができるので、実生活と結び付けたり実際に雨の日に地面の様子を観察したりして、理解を深められるようにする。 ・どの単元においても、実験結果やなぜそうなるのかなど、自分の言葉でまとめて、発表させる機会を意図的に取り入れる。 ・実験結果や単元のまとめなどを教室背面の学習コーナーに掲示して、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童の割合は(83.0%)で、市の平均と比べて21ポイント以上高く、学校全体で実施している家庭学習パワーアップウィークや日々の自主学習など、家庭と連携した取組による成果であると考えられる。今後とも、学校と家庭で連携し、家庭学習の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」と回答した児童の割合は(94.4%)で、市の平均と比べて8ポイント以上高く、個人解決を促す指導の工夫や個人解決にあてる時間を確保した授業の工夫による成果であると考えられる。今後も、課題解決に結び付けられるような指導や支援の充実を図っていき、学習に対する意欲をさらに高めていきたい。

○「1か月に5冊以上の本を読む。」と回答した児童の割合は(54.7%)で、市の平均と比べて9ポイント以上高い。学校全体で行っている家読や朝の読書などの取組の成果であると考えられる。引き続き、読書の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」と回答した児童の割合は(69.8%)で、市の平均と比べて6ポイント以上高い。昨年度から学校課題として取り組んでいる1人1台端末の効果的な活用を通じた学習指導の研究において、児童の情報活用能力を育ててきた成果と考えられる。今後も、児童の情報活用能力を高めていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答した児童の割合は(67.9%)で、市の平均と比べて5ポイント以上高い。文や文章の構成についての知識を身に付けさせたり、自分の考えを整理してから文章を書かせたりするなど、指導の工夫を図っていきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童の割合は(56.6%)で、市の平均と比べて4ポイント以上低い。学校全体で行っている「にっこりさんカード」を今まで以上に活用したり、児童の善行や頑張りを教師が見逃さず全体で紹介したりするなどして、自己肯定感が高まる指導の充実を図ってきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。 日記、作文指導 家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。 家庭学習で、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書き、書く力を養う。 全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習の記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> 「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の問いでは、県や市の肯定回答率より高い。 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の問いでは、県や市の肯定回答率より高い。 「自分の考えを書くときに考えの理由がわかるように気を付けているか」の問いでは、県や市の肯定回答より低い学年があり、課題が見られる。 「1日あたりの学習時間」や「計画を立てて学習しているか」の問いでは、県や市の平均を大幅に上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 国語では、「話すこと」や「書くこと」に関する問いで、県の平均より低い問いがあり課題が見られた。 算数では、図形に関する問いで、県の平均より低い問いがあり課題が見られた。 理科では、実験結果や条件から判断して記述できるかを問う問題で、県の平均より低く、課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いなどを分かりやすく書いたり伝えたりする力を伸ばす指導の工夫 日記・作文指導の充実 学習コーナーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> どの教科においても、伝えたいことや分かったことなどを自分の言葉で分かりやすくノートにまとめたり、それを伝えたりする場面を意図的に設定する。 全校体制で取り組んでいる日記・作文指導を継続して行う。 日々の学習で学んだことの理解をさらに深めるために、教室背面の学習コーナーに掲示するなど、視覚的に理解が深まるよう工夫する。特に算数の図形や理科の単元のまとめなどは、既習事項も含めて掲示する。